



合格はゴールではない

残暑が長く続きましたが、10月中旬から一転して肌寒さを感じる季節となりました。ここから受験生は冬休み・年末年始を経て入試に向けてラストスパートとなります。今だからこそ伝えたいことですが、進学先が決定したときに、解放感とともに「しばらくは勉強から離れて自由にさせたい」と思っていないか。実はそういう家庭ほど、入学後に大きく失敗しているということはあまり知られていません。今回は中学・高校・大学進学それぞれで気を付けるべき点の一部を紹介します。

①【小6→私立中1】余裕のある今だからこそ、「自分で勉強する」習慣を「自分で」身につける

私立中学の合格が決まった時点で、残念ながら受験期の学習習慣は一気にリセットされ、二度と同じような勉強はできません。これは毎年、大学生になったE:REX卒業生たちが口をそろえて言うことですが、大学受験のときに「中学受験の時に頑張ったからやれる」という気持ちを奮い立たせることはできても、「大学受験でどれだけ一生懸命勉強しても中学受験の時と同じようにはできない」と言います。これは精神的に成長する前の小学生と成長した10代後半との意識の大きな違いです。毎年、私立中学生の保護者から共通して「受験の頃と比べて全然勉強しなくなった」という相談を受けますが、学校生活などで楽しみが格段に増え、精神的にも徐々に親離れをしていく私立中学生にとってはある意味避けては通れません。だからといって徹底的な管理を強要するのは全くの逆効果。依存心を強め、本人の自主性・思考力・意欲を奪うだけです。

この時期に身につけたいのは「その週の授業内容の復習・演習を毎週必ず行う」習慣。学習内容がさらに細分化・高度化する高校以降の学習姿勢の土台を築くためと、定期考査前の勉強をより濃密なものとするためです。中高一貫のメリットは「高校入試がなく6年間かけて大学入試に向けて積み上げができる」こと。比較的時間的・精神的な余裕の生まれやすい私立中学の時期だからこそ、ある程度時間と手間がかかったとしても自主性のある学習スタイルへの切り替えを図る必要があるのです。これらをふまえてLAB07では、中学受験期のような徹底管理ではなく、勉強の仕方や進め方を担当が範を示しながら生徒自身でできるように促し、毎週単位で進捗をみていく自主学习指導に重きを置いています。

②【中3→高1】高校入学してすぐが大学入試の始まり！進学先を左右するのは「高1の成績」

愛知県の高校入試に必要なのは「実力」と「中3時点での内申」です。極端なことを言えば、中1・2で思うように上がらなかったとしても、中3で内申・実力ともにジャンプアップができるかどうかポイントとなります。(ただし、ジャンプアップの度合いも中1・2時点の過ごし方によって左右はされます。)

対して大学受験で進路を最も左右する時期は、実は高3ではなく「高1の成績」。特に指定校・内部進学等の推薦で一定水準以上の「評定平均」(通知表の5段階評価の平均)が必要となる場合、選択講座の多い高2・3よりも必修科目数が多い「高1」のほうが評定平均を最も稼ぎやすいためです。ですから、「1・2年はダメでも3年で挽回して逆転」は実は高校入試よりもハードルが高いのです。高1のスタートからしっかりと成績をあげて評定平均を高めたほうが進学の幅が広がるのは間違いありません。(その点、今年のLAB07高1生は総じて、高校入学時点から成績に対する意識を身につけようとする姿勢が伺えます。)

③【高3→大1】入学直後にテスト実施の大学も。クラス振り分けで当たり外れが生じることも。

この時期は指定校・内部進学等の推薦入試で進学が決まる時期ですが、特に今年は、現行の大学入試制度の最終年ということもあり、推薦の注目度合いが増しているようです。しかし、この時期に進学先が決まったからといって、卒業までの半年は何もしなくて良いわけではありません。入学後に振り分けテストを行う大学・学部がある場合はもちろん、基礎学力の維持に努めたり、レポート・論文などの文章力を磨いたり、語学力を高めたりなど、大学進学後の学びの準備期間と位置づけて、この時期でしかできない学習に力を入れなければなりません。「入ってしまったあとは何とでも」は、より深い学びの機会の損失といえるのです。